スコーレ映画サロンのお知らせ vol.283

◆日　時：2024年3月24日(日)　14:00～18:00
◆会　場：名古屋国鉄会館
(わからない方は10分前にスコーレに集合またはお問い合わせください)
※映画サロンは禁酒禁煙です。
◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

課題映画

▷**落下の解剖学**
(2/23よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

▷**52ヘルツのクジラたち**
(3/1よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

サロンメモ

今月の2本は賛否、それも単純でない賛否が交錯して大変面白い回だった。「哀れなるものたち」がそうなる事は想像できた。詰め込み過ぎるくらいに情報量の多い映画だから解釈も多岐に渡る。その中で、ラストの人物構成からその不穏な空気を掻き立てられたという意見に思わず膝を打った。ヨルゴス・ランティモス監督の日本初公開作はシネマスコーレでの上映。アカデミー賞の候補になる映画を作るようになっても、この鬼才にはミニシアター的血液がドクドクと流れている。

「夜明けのすべて」の意見の交錯には色々と考えさせられた。こういった映画の場合、特に見る人の経験や立場、状況、属性などが意見に大きく反映される。サロン参加者にもこの映画で描かれる病気や障害の当事者、身内にいた人、職場や知人にいた人など、様々に関係があった人がいた。ただ当事者や関係があったからといって映画の評価が高くなるとは限らない、関係があったからこそ理解が及ぶ場合もあれば、逆に反発を覚える事もある。そんな経験がない人も同様。教育映画みたいという意見、善人ばかり出て来て深みがないという意見、気持ちのいい時間を過ごせたという意見、こんな甘いものじゃないという意見、映画は理想を描くものだという意見等々。映画は単純でないから面白い。単純でない映画は解釈や感想も面白い。(小西)

初めて参加される方は参加費無料！ 10分前にシネマスコーレまでお越しください。

2/25(日) サロン参加者	哀れなるものたち	夜明けのすべて	カラオケ行こ！	枯れ葉	瞳をとじて	笑いのカイブツ	ゴールデンカムイ	コンクリート・ユートピア
岡村 昌俊	3	3	3	3				
高橋 広河	4	4	4				3	
加藤 千穂子	5	3			4			5
田中 健一	5	5						
井上 章	5	5	5	4		3	3	5
三田 正継	4	5	5	5	5	4	3	4
加藤 賢二	3	4						
山本 正明	5	4	3	4	4	3	3	4
牧野 鐘徳	5	5	3	5	5	4	4	4
榊原 隆裕	4	4	4					5
横井 清	4	4	4				3	4
近藤 生久子	4	4			5			
白石 麻由子	4	3	4					
天野 雄喜	4	5	5	5	4	3	3	
斎藤 文彦	5	5	3				5	
小西 孝直 (スコーレサロン代表)	4	3	3	4	4	4		
坪井 篤史 (スコーレ支配人)	4	5	4	4	4			4
木全 純治 (スコーレ代表)	4	4	4	5			4	3